

2023年3月期第2四半期(中間期)
決算説明資料

株式会社トマト銀行

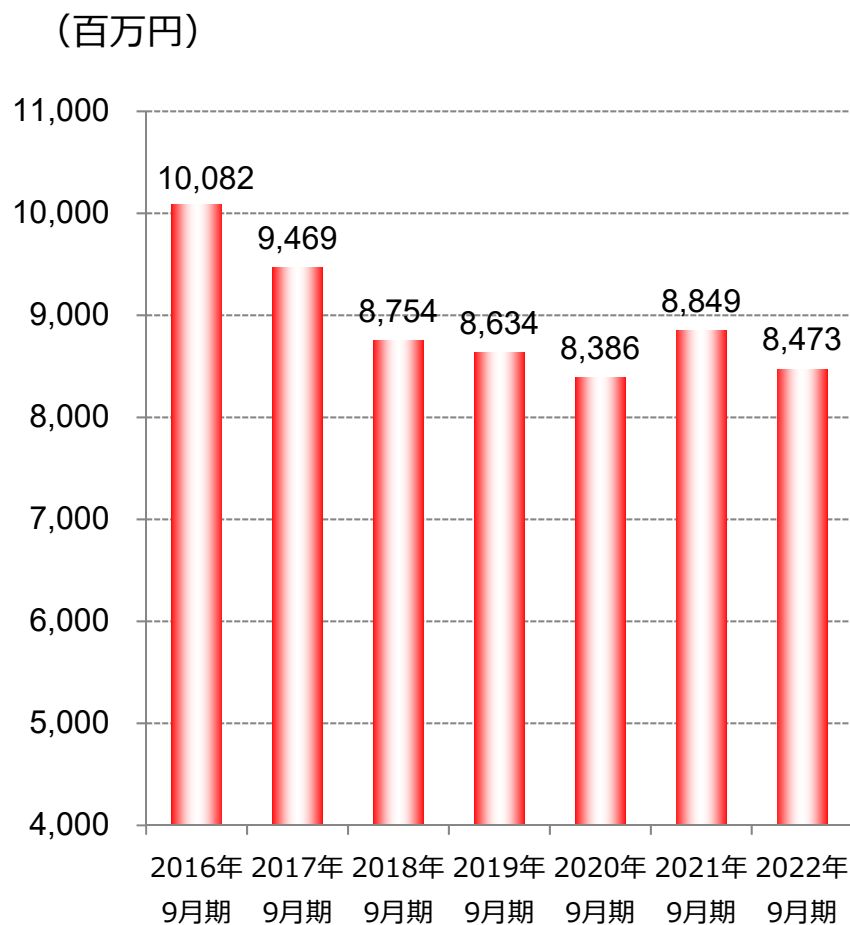
目次

損益の推移	2
決算概要	3
預金・預り資産	4
貸出金	5
中小企業向け貸出（岡山県内）	6
岡山県内向け貸出	7
事業者向け貸出先数・事業者メイン先数	8
総資金利鞘（国内業務部門）	9
有価証券	10
自己資本比率	11
経費・コア業務粗利益 O H R・ROE	12
不良債権比率、保全・引当状況	13
2023年3月期 業績予想	14
トマト銀行のプロフィール	15
本資料に関する照会先	16

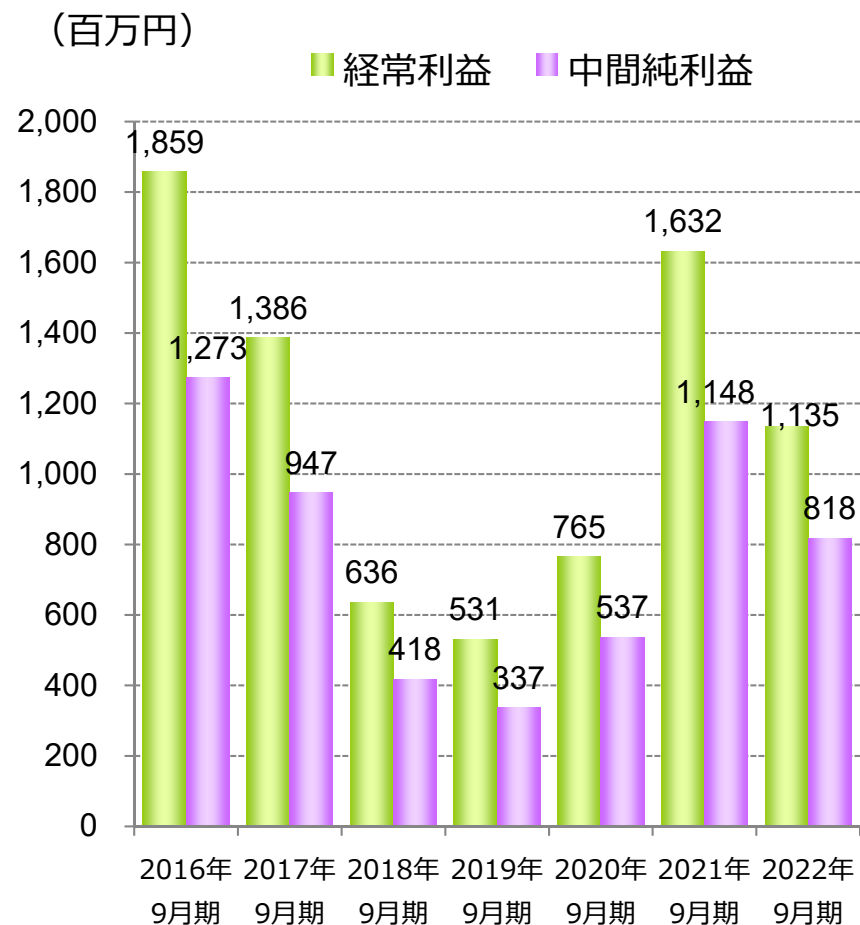
損益の推移(単体)

- 資金運用収益の減少や貸倒引当金戻入益の減少等により、経常収益は2年ぶりの減収
- 経常利益は、不良債権処理費用等の増加により3年ぶりの減益、中間純利益も3年ぶりの減益
- 経常利益は業績予想比+435百万円、中間純利益は同+318百万円となった。

経常収益の推移



経常利益・中間純利益の推移



決算概要

- 業務粗利益は資金利益の減少ならびに役務取引等利益の減少により前年同期比 230百万円減少 (△3.3%) の 6,641百万円
- 経常利益は、不良債権処理費用等の増加により前年同期比 496百万円減少 (△30.4%) の 1,135百万円

損益状況

【単体】

(百万円)

	2021年 9月期	2022年 9月期	前年同期比
業務粗利益	6,872	6,641	△230
うち資金利益	6,430	6,321	△108
うち役務取引等利益	381	317	△63
経費	5,524	5,411	△113
コア業務純益	1,293	1,233	△59
除く投信解約損益	1,303	1,248	△55
一般貸倒引当金繰入額①	—	50	+50
業務純益	1,347	1,180	△167
臨時損益	284	△44	△328
うち不良債権処理額②	110	156	+46
うち一般貸倒引当金戻入益③	395	—	△395
うち株式等関係損益	△22	102	+124
経常利益	1,632	1,135	△496
当期純利益	1,148	818	△329

与信関連費用 (①+②+③)

△285

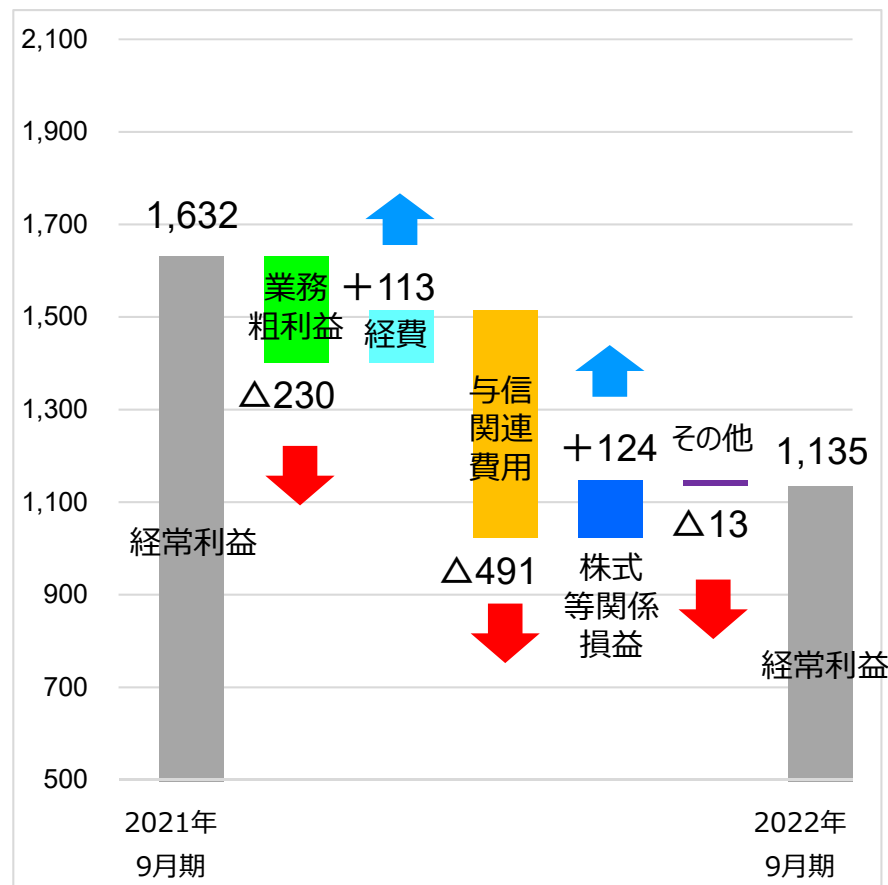
206

+491

経常利益の増減要因

【単体】

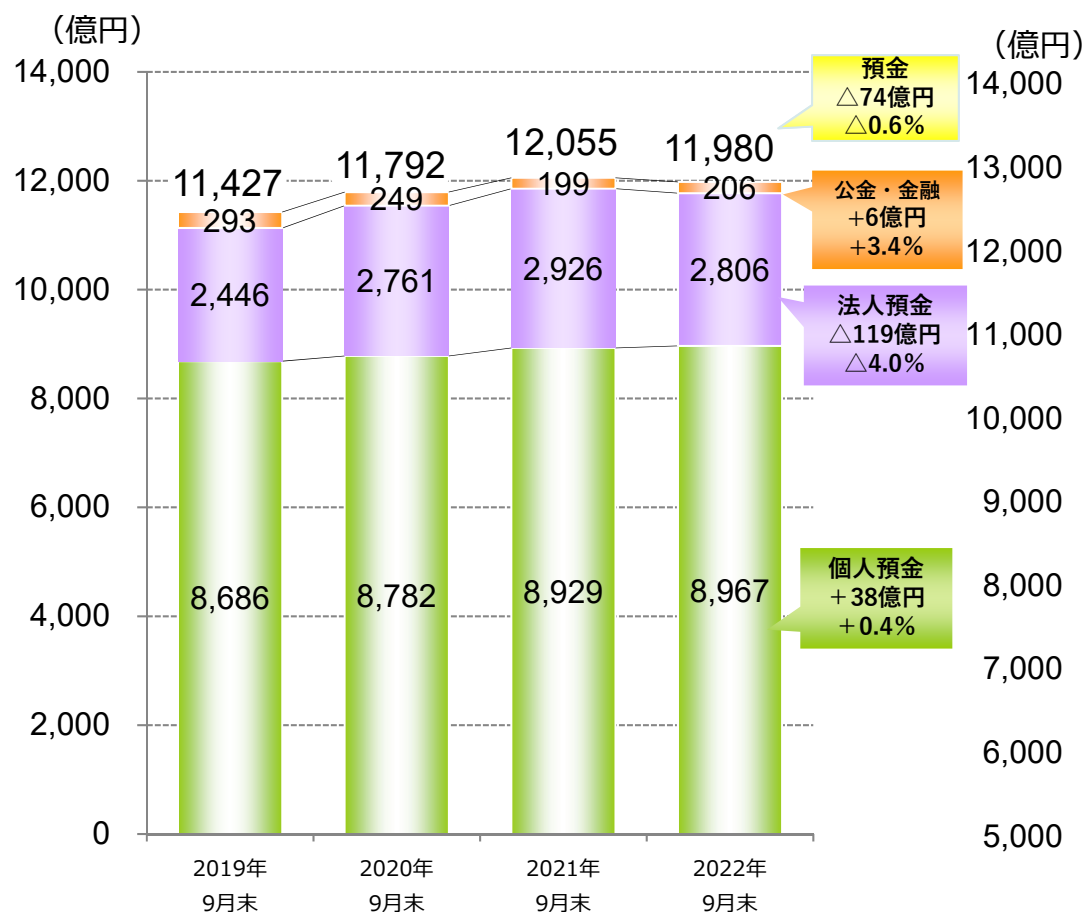
(百万円)



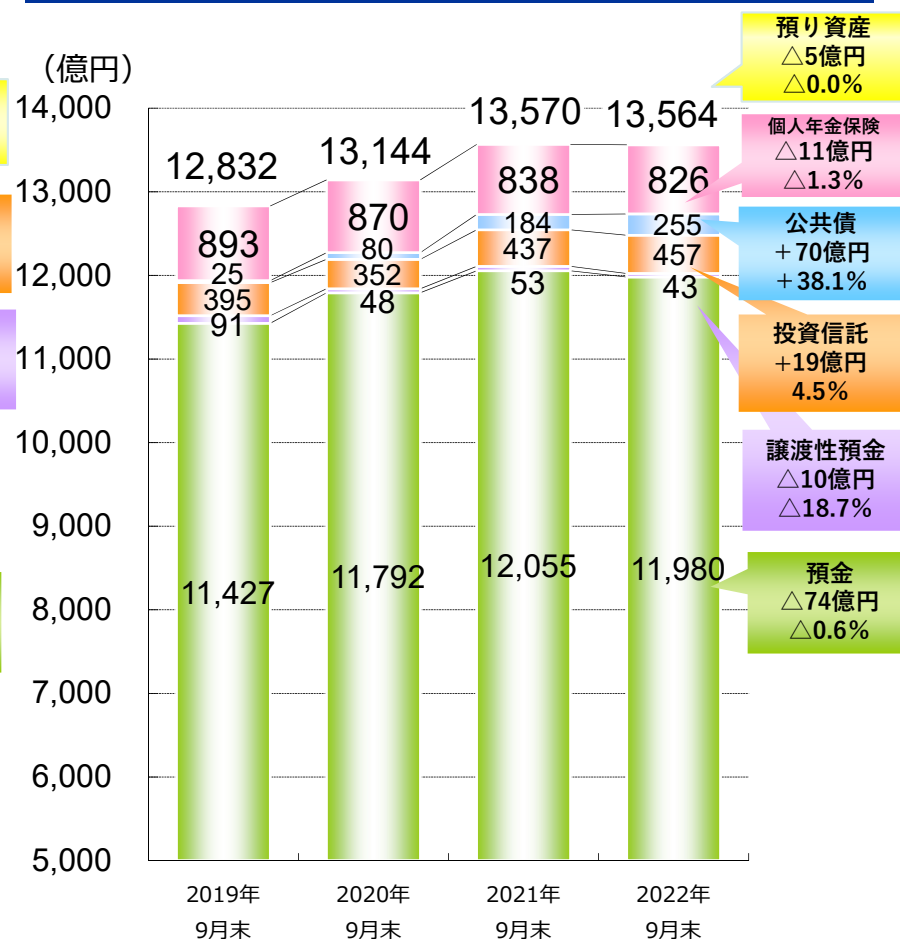
預金・預り資産

- 預金は、個人預金が増加したものの、法人預金の減少により、2021年9月末比 74億円減少 (△0.6%) の1兆1,980億円
- 預り資産残高 (預金含む) は、公共債・投資信託が増加したものの、預金の減少により、2021年9月末比 6億円減少 (△0.0%) の1兆3,564億円

預金残高の推移(単体)



預り資産残高の推移(単体)

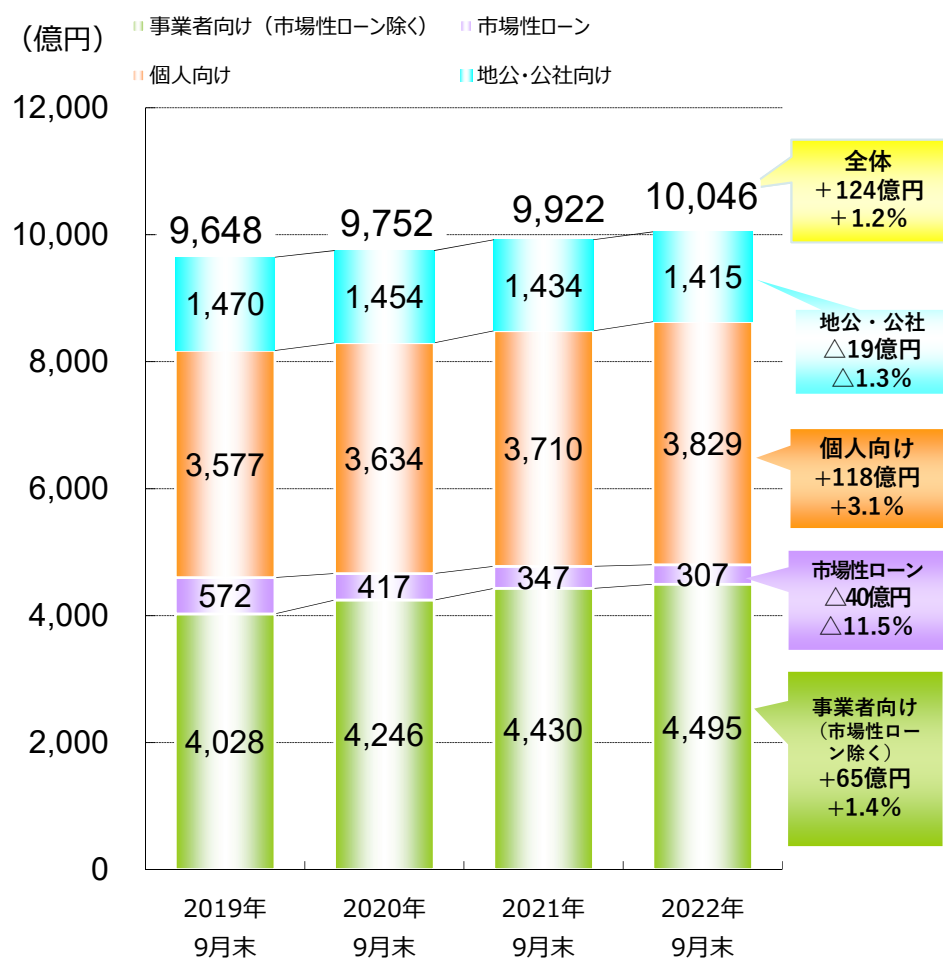


※ 預り資産とは、預金、譲渡性預金、投資信託、公共債、個人年金保険をいいます。

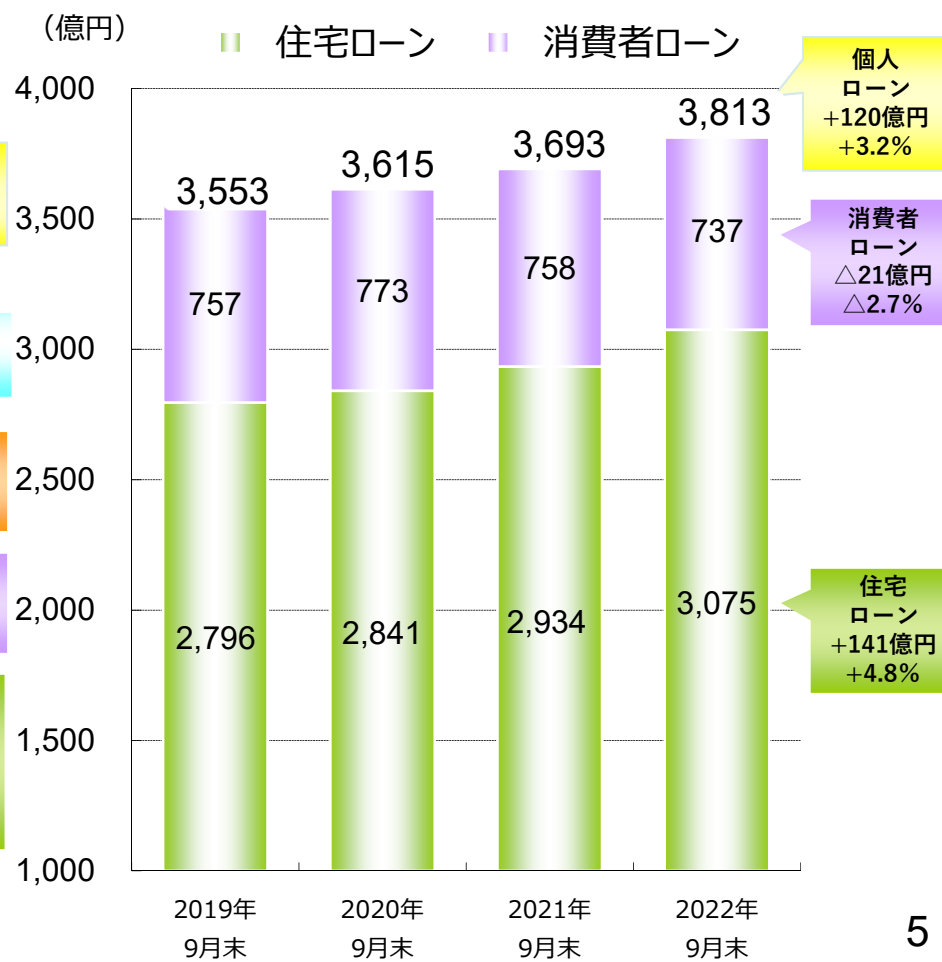
貸出金

- 事業者向け（市場性ローンを除く）貸出残高は、2021年9月末比 65億円増加（+1.4%）
- 個人ローンは、住宅ローンが順調に増加したことにより、2021年9月末比 120億円増加（+3.2%）
- 全体の貸出金残高は、2021年9月末比 124億円増加（+1.2%）の1兆46億円

貸出金残高の推移(単体)



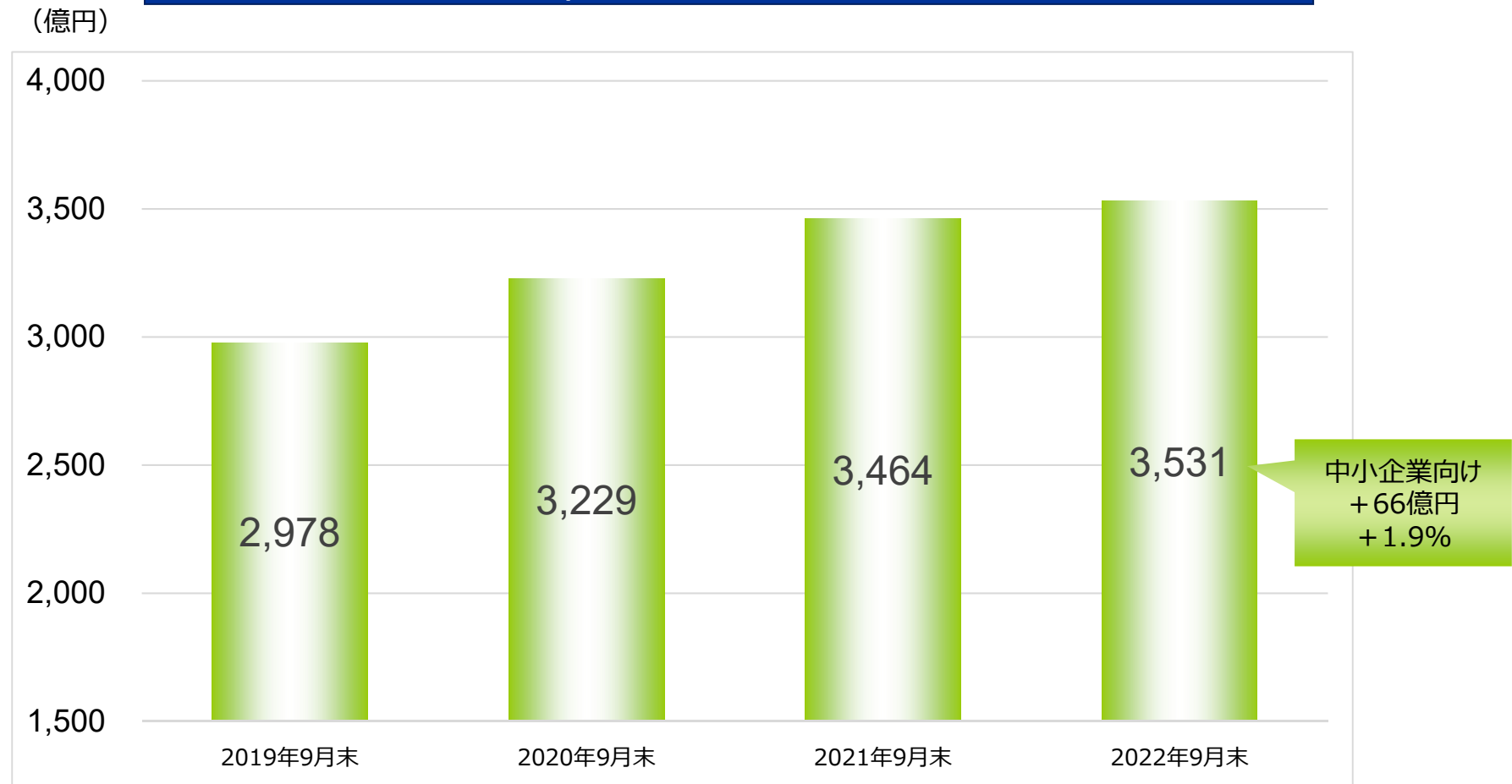
個人ローン残高の推移(単体)



中小企業向け貸出(岡山県内)

- 中小企業向け貸出残高(岡山県内)は、コロナ禍で影響を受けたお客さまに対する資金繰り支援を積極的に行ったことから、2021年9月末比66億円増加(+1.9%)の3,531億円

中小企業向け(※)貸出(市場性ローン・預担を除く)残高(岡山県内)



※ 資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円)以下の会社又は常用する従業員が300人(ただし卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人)以下の企業など

※ 岡山県内は預担を含んだ計数です

岡山県内向け貸出

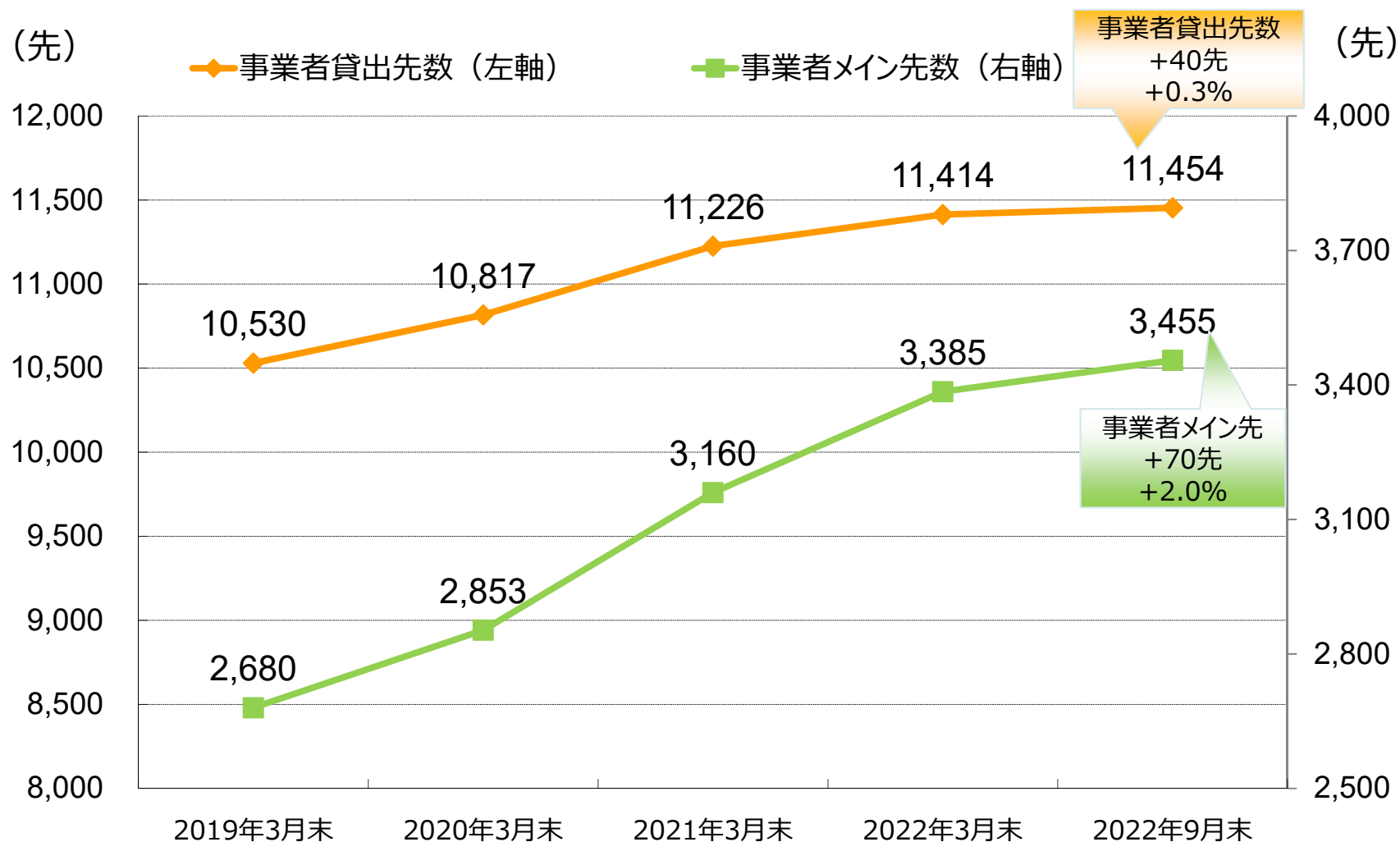
- 岡山県内を中心としたお客さまに対する資金繰り支援を積極的に行ってきた結果、県内向け貸出残高は、2021年9月末比 185億円増加（+2.0%）の9,058億円、県内向け貸出比率は、2021年9月末比 0.7%上昇の90.1%

(億円)



事業者貸出先数・事業者メイン先数

- 事業者貸出先数は順調に増加し、2022年3月末比 40先増加 (+0.3%) の11,454先
- 事業者メイン先数も順調に増加し、2022年3月末比 70先増加 (+2.0%) の3,455先

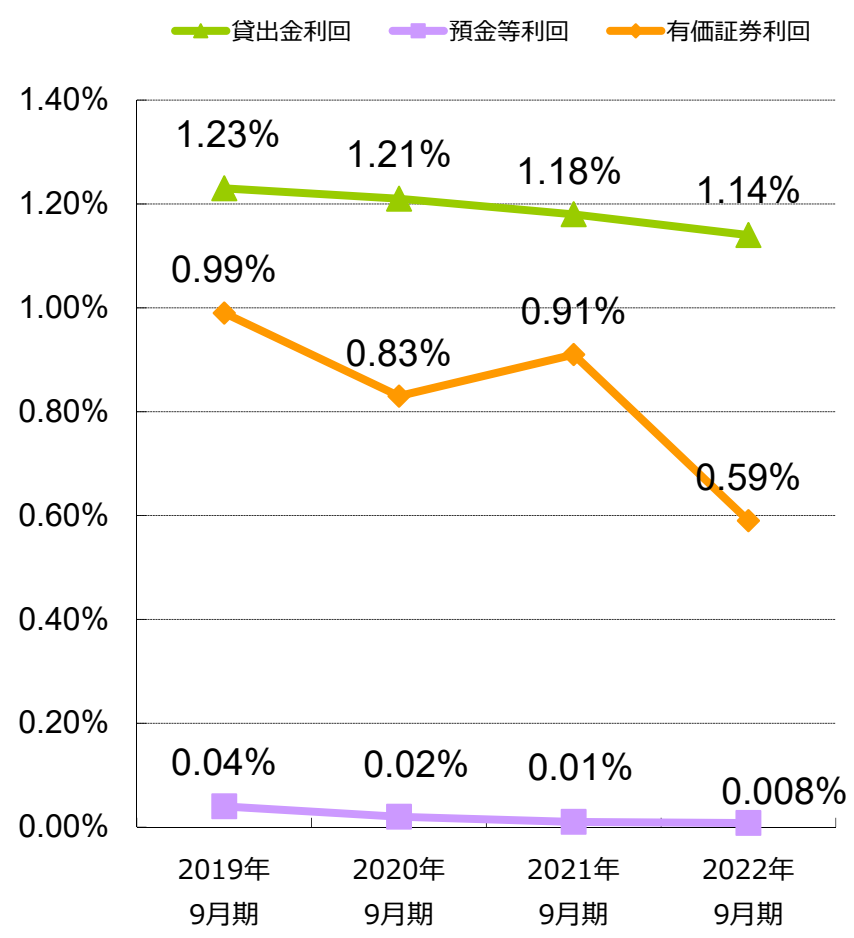


※ 事業者メイン先数とは役員借入を除く融資シェア第1位の事業者

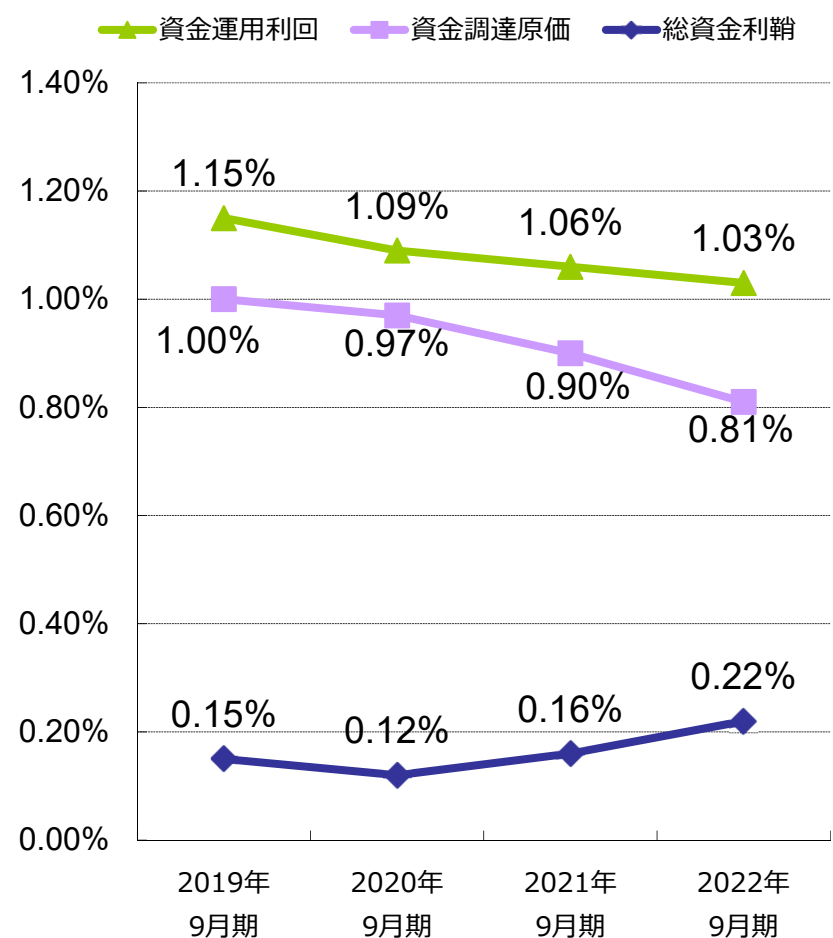
総資金利鞘(国内業務部門)

- 貸出金利回は、低金利政策の長期化により2021年9月期比 0.04%低下の1.14%
- 有価証券利回は、2021年9月期比 0.32%低下の0.59%
- 総資金利鞘は、資金調達原価が低下し2021年9月期比 0.06%上昇の0.22%

各種利回り等の推移(国内業務部門)



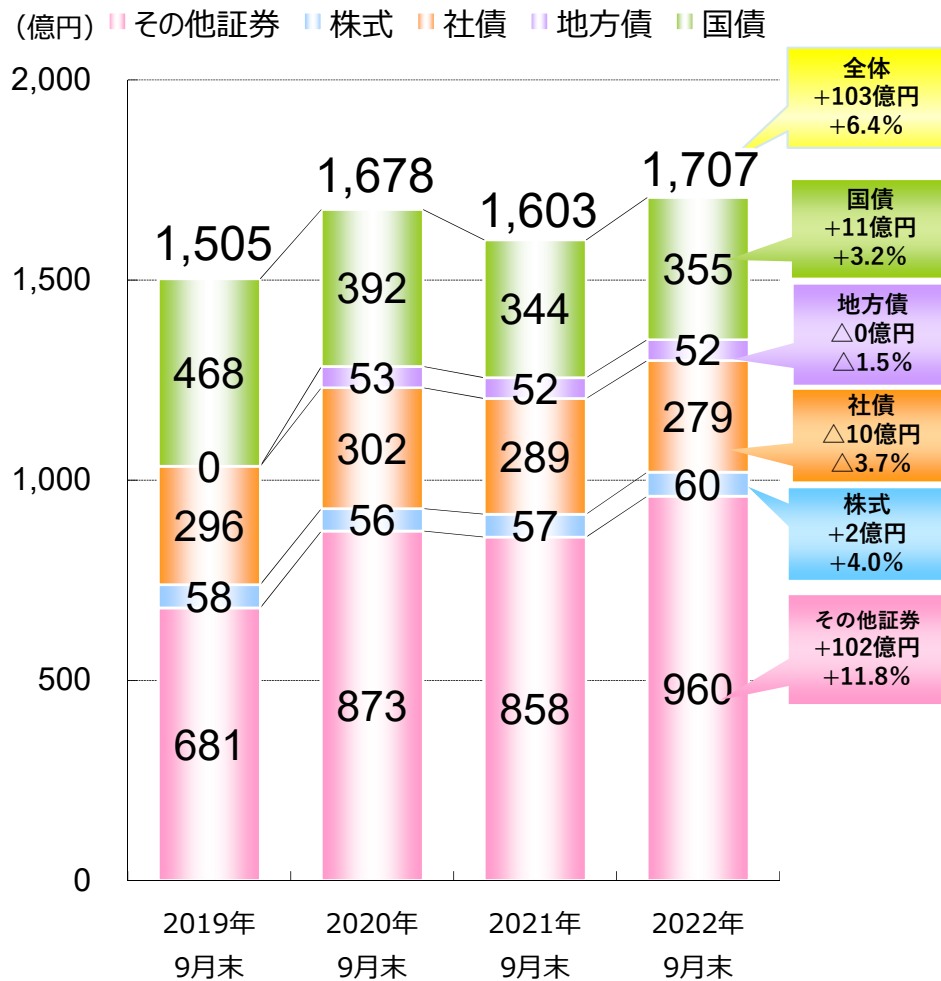
総資金利鞘等の推移(国内業務部門)



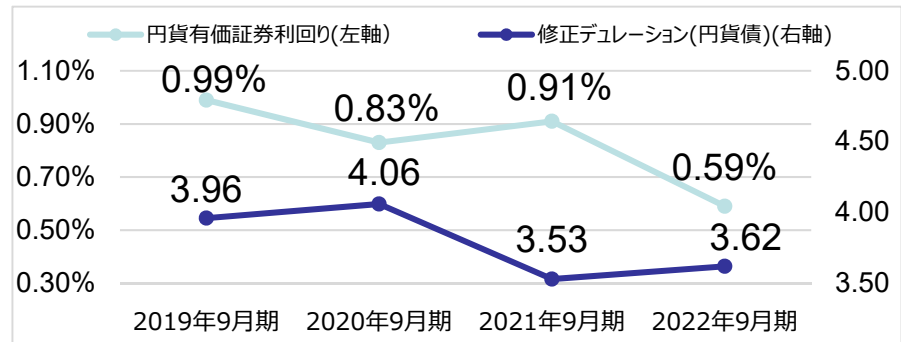
有価証券

- 有価証券残高は、その他証券が増加したことから2021年9月末比 103億円増加 (+6.4%) の1,707億円
- 有価証券評価損益は、その他の有価証券の評価損益の減少 (債券及びその他) により2022年3月末比 2,179百万円減少
- 円貨有価証券利回りは、2021年9月期比0.32%低下の0.59%、修正デュレーションは、2021年9月期比0.09上昇の3.62

有価証券残高の推移



利回り・修正デュレーションの推移



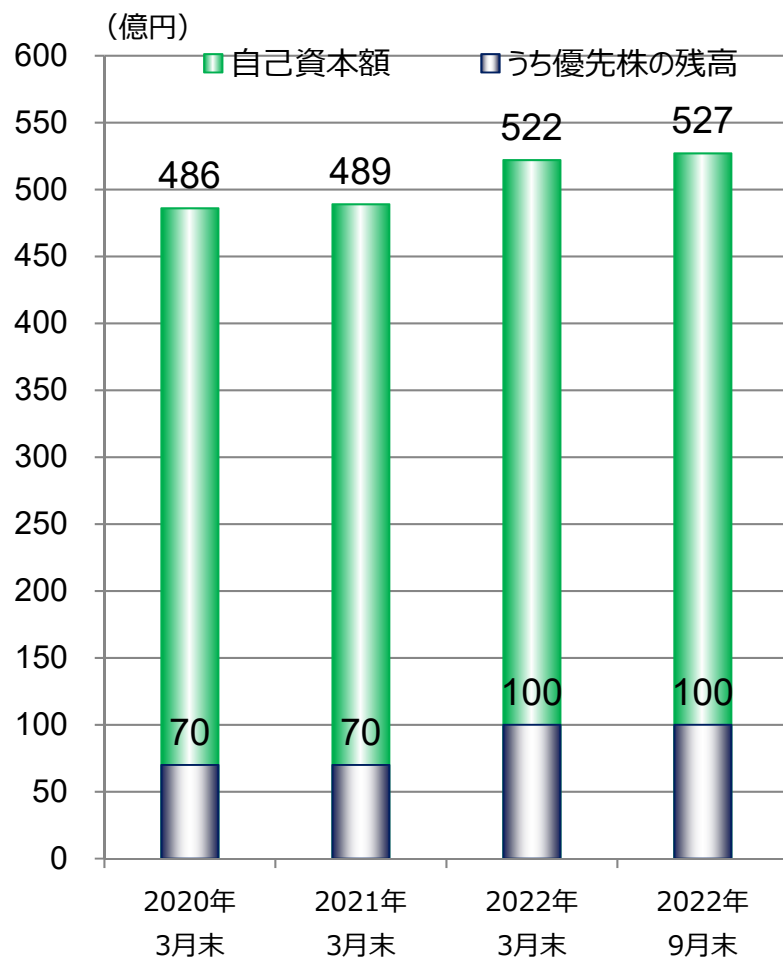
有価証券評価損益の状況

(百万円)	2022年9月末 評価損益		2022年3月末 評価損益
		2022年3月末比	
満期保有目的	364	△98	462
その他の有価証券	△414	△2,179	1,765
株式	2,500	183	2,317
債券	△267	△185	△81
その他	△2,647	△2,177	△469
合計	△49	△2,277	2,228

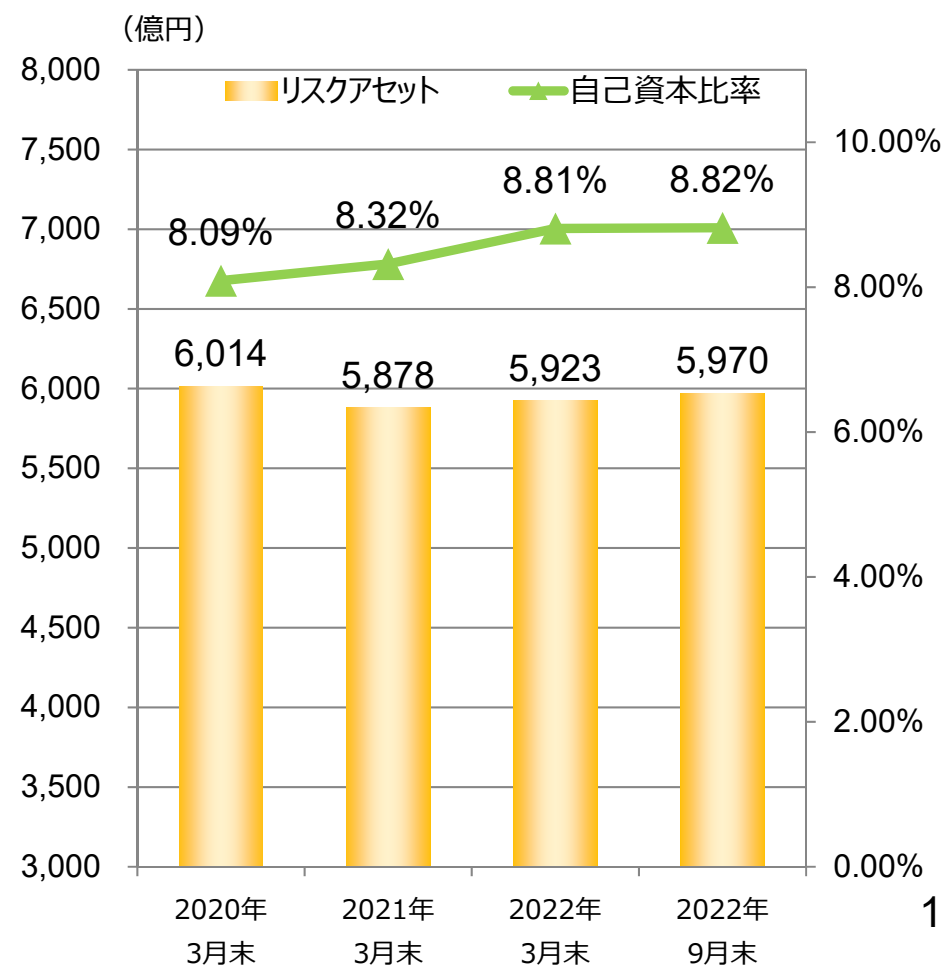
自己資本比率

- 自己資本比率（単体）は、リスクアセットが増加したものの利益の積み上げにより 2022年3月末比 0.01% 上昇し8.82%
- 国内基準（4%以上）を大きく上回っており、健全性を確保

自己資本の推移【単体】



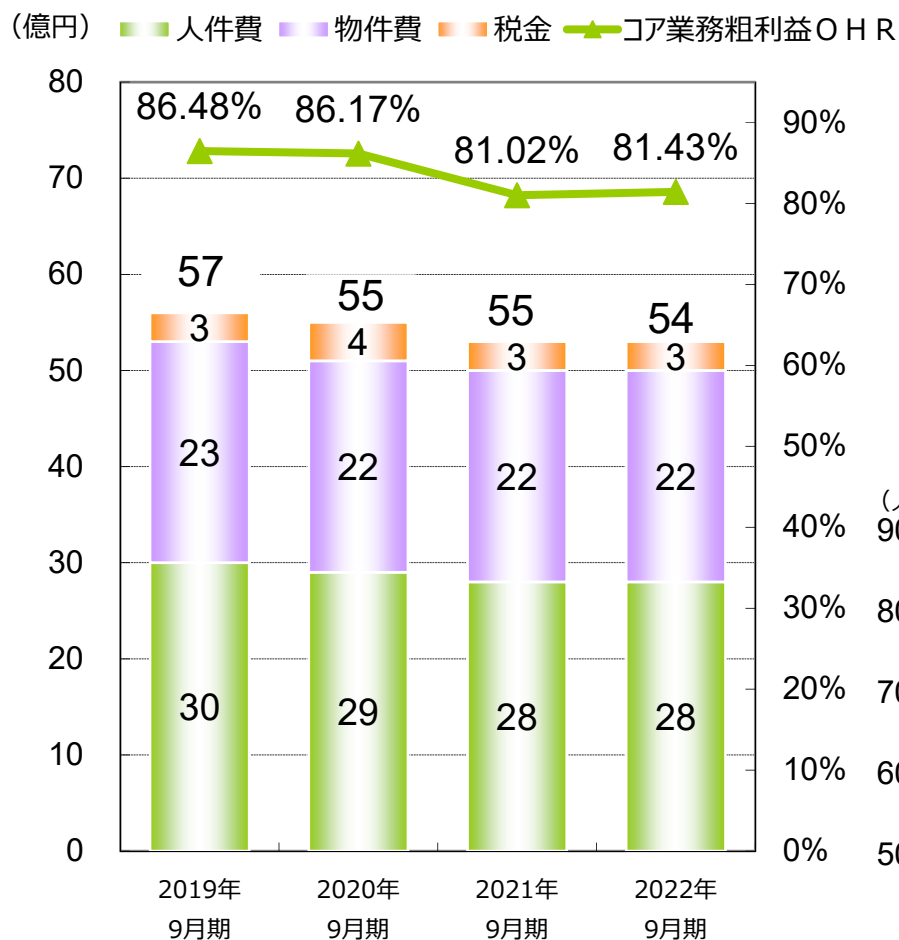
自己資本比率・リスクアセットの推移【単体】



経費・コア業務粗利益OHR・ROE

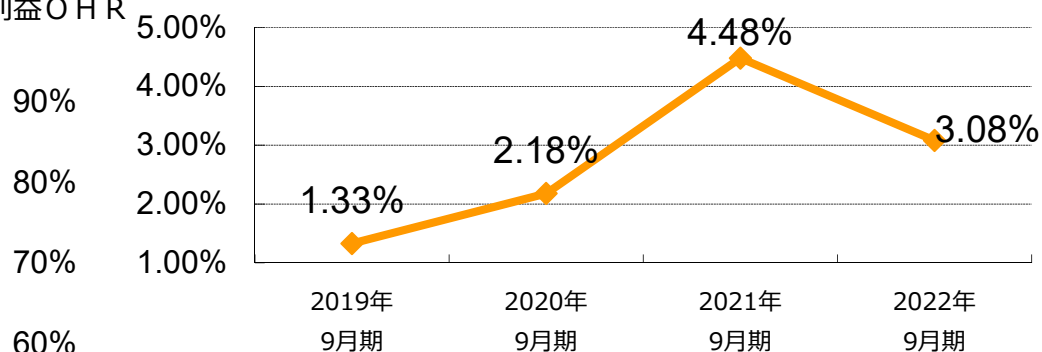
- 物件費等の減少により、経費は2021年9月期比113百万円減少し5,411百万円
- コア業務粗利益OHRは、コア業務粗利益の減少により2021年9月期比0.41%上昇し81.43%
- ROEは、2021年9月期比1.4%低下の3.08%

経費・コア業務粗利益OHRの推移

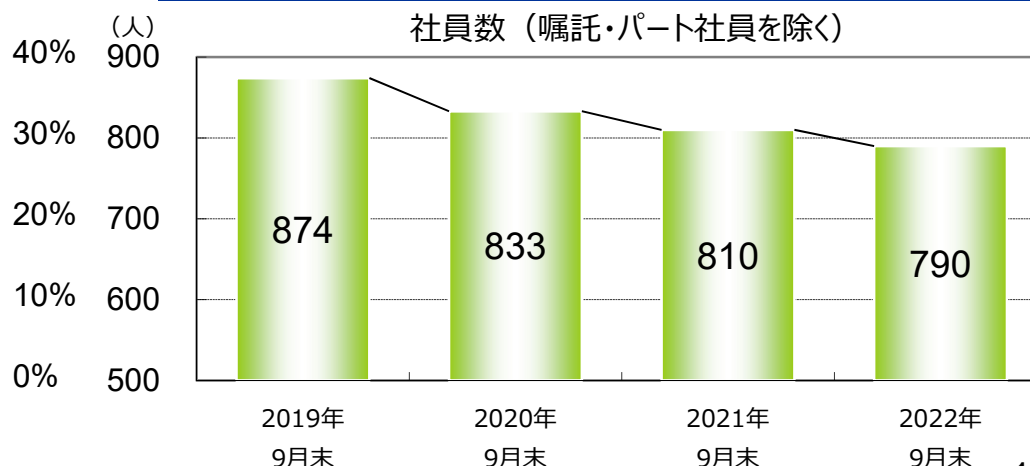


※ コア業務粗利益OHR = 営業経費 / コア業務粗利益

ROEの推移



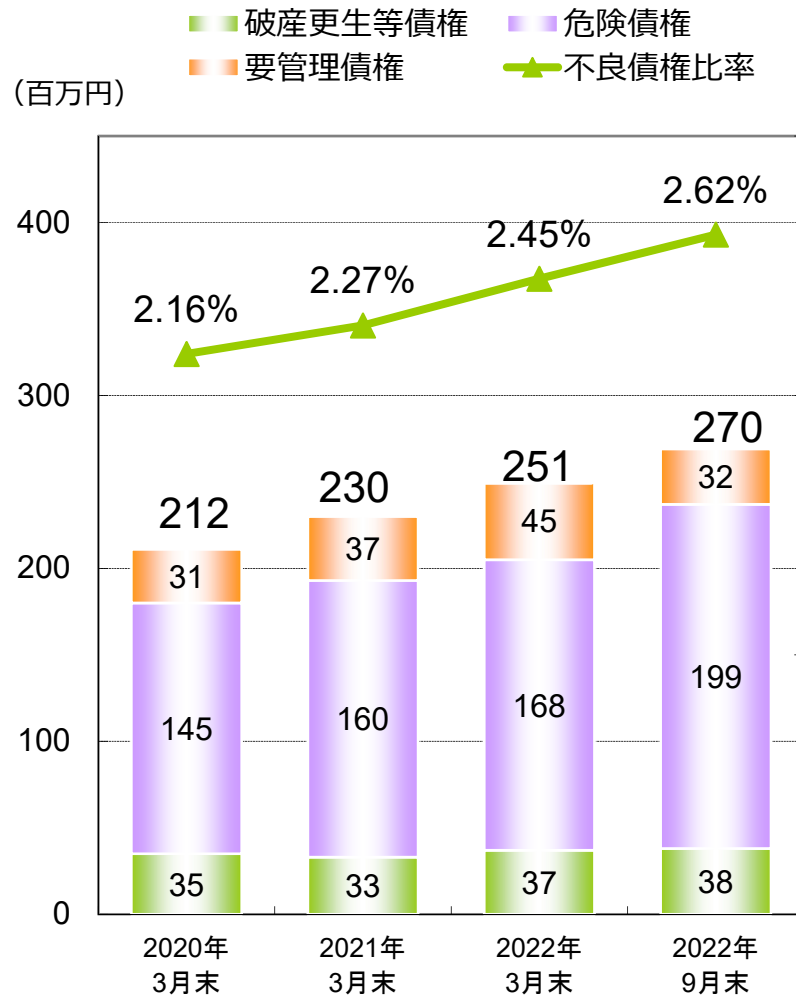
人員の推移



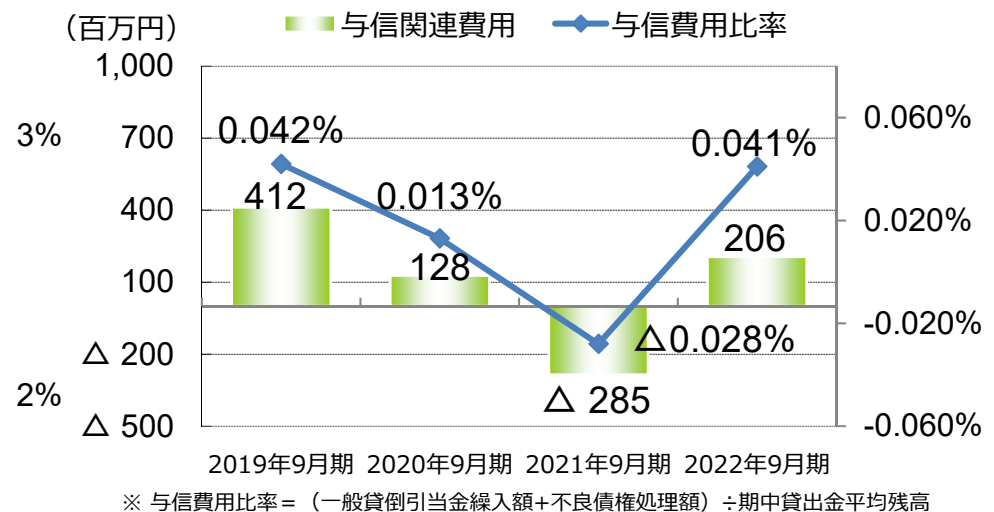
不良債権比率、保全・引当状況

- 不良債権比率（金融再生法開示債権比率）は、2022年3月末比 0.17%上昇の2.62%
- 2022年度上半期の与信関連費用は、コロナ禍で資金繰り支援を積極的に取り組み、206百万円に止まる。
- 保全率（担保・保証等、引当金）は、79.56%となった。

不良債権比率の推移



与信関連費用の推移



保全・引当状況

	2022年9月末		2022年3月末
		2022年3月末比	
保全率	79.56	+ 1.14	78.42
引当率	38.94	△ 0.16	39.10

(%)

2023年3月期 業績予想

【単体】

(%表示は対前期増減率)

	経常収益		経常利益		当期純利益		一株当たり 当期純利益	
2023年3月期 (予想)	百万円 16,900	% △0.0	百万円 2,000	% △10.2	百万円 1,400	% △8.2	円 107	銭 44

【連結】

	連結経常収益		連結経常利益		連結当期純利益		一株当たり 当期純利益	
2023年3月期 (予想)	百万円 22,100	% △3.1	百万円 2,200	% △10.2	百万円 1,500	% △9.5	円 116	銭 14

※通期の業績予想は今後の経済・金融情勢が不透明であることから期初予想から変更しておりません。

トマト銀行のプロフィール

本社所在地	岡山県岡山市北区番町2丁目3番4号
設立年月日	1931年（昭和6年）11月9日
資本金	143億1千万円
総資産	1兆3,057億円
預り資産残高	1兆3,564億円（うち預金残高 1兆1,980億円）
貸出金残高	1兆46億円
従業員数	790名（嘱託・パート社員除く）
店舗数	61カ店、住宅ローンセンター 2カ所、ビジネスサポートプラザ 1カ所
上場取引所	東証スタンダード市場（証券コード 8542）

※ 計数は単体、2022年9月末時点

本資料に関する照会先



株式会社トマト銀行 経営企画部
Tel : 086-800-1830

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比等異なる可能性があることにご注意ください。